



10月のほけんだより

令和2年10月1日
中城みなみ保育園幼稚園
看護師 野沢

これからの季節にむけて、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行の懸念が高まっています。そのため、厚労省の対策として昨年よりもインフルエンザワクチンの供給量を増やして準備し(2015年以來過去最大)、10月上旬より65歳以上の高齢者、10月後半からは、医療従事者、子ども(乳幼児から小学校低学年まで)、妊婦、65歳未満の持病のある人へ優先的にワクチン接種を呼びかける方針が打ち出されました。

インフルエンザが実際にはやるかどうか分かりませんが、今まで通り私たちひとりひとりができる感染対策をしていくことが流行の抑制につながると思います。

子どもたちにとっての日常生活を維持できること、人と触れ合い学ぶ環境は不可欠です。2つのウイルスを闇雲に恐れるよりも、そのうちの1つ、インフルエンザにはワクチンも有効な薬もあります。病気を正しく恐れて、これからも私たち保育者と保護者のみなさまとで連携していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

同時流行期に子どもが発熱したら・・・

新型コロナもインフルエンザも、「咳、倦怠感、発熱」と、初期の自覚症状は似ています。

Withコロナといわれる時に子どもが熱を出せば、新型コロナに感染したのか？風邪なのか？違う理由なのか？かかりつけ医に受診していいものかどうか？などと例年とは違う緊張感とともに生きる日々です。

しかし、現在の症例報告では、家庭内感染は増えているものの、子どもたちは新型コロナに関して無症状のことが多いです。ですから、発熱して続くようならばインフルエンザの可能性が高いと考えられます。

インフルエンザかどうかは受診して検査しないと確定できません。しかし確定さえできれば処方薬もあるので、ぜひかかりつけ医に受診してほしいのです。最近では発熱している患者はインターホンで連絡し、入り口から診察室への導線も別途隔離できるクリニックが多くなりました。だから、ためらわず決して受診控えしないで！とお伝えしたいです。

目の愛護デー



10月10日は 目の愛護デー



6歳までの「目育て」が大切。子どもの目の成長が著しく成長するのは「生まれてから6歳まで」と考えられています。子供たちの目の健康が守られ、健やかに成長できるように心がけましょう。

★子どもの視力低下のサインを見逃さない。

- ・テレビを見るとき、前へ寄ったり、極端に近づいて見たりする。
- ・ものを見るときに、目を細めたり、あごを上に向けたり、下に引いたりする。
- ・片方の目でテレビを見せると、どちらかの目が見えにくそうにしている。
- ・よくものにぶつかったり、転んだりする。
- ・片目をつぶって、ものを見るときがある。

⇒⇒⇒該当するものがあつたら眼科へ

★子どもの目をよくするためにできること

- ① テレビやスマートフォンなどは「近い距離で長時間見続けない」
- ② 正しい姿勢が視力をまもる
- ③ 子どもは真っ暗な部屋で寝かせる

9月の感染状況

